

[資料] 過去の主な特別防災区域における事故災害

発生年月日	事業所名	場所	概要	原因	被害状況
S49.8.20	セントラル硝子(株)宇部ソーダ工場	屋外タンク貯蔵所	発煙硫酸屋外タンク貯蔵所(340 m ³ 、640 トン)で発煙硫酸を船舶から受入完了後、受入配管内残液をエアで同タンクに送出中、タンク天板と側板の溶接部が3m破損した。	排ガスパイプ(80A)内にスケールが生成、バージニアの流れを阻害しタンク内を加圧状態にしたもの	タンク天板及び側板破損
S50.9.1	宇部興産(株)宇部式重質油ガス科脱硫開発部	製造所	製造所付属屋外タンク(硫黄35 m ³)をスチーム加熱(140℃)して使用していたが、当分使用しないため同日1.5 m ³ の硫黄が残った状態でスチーム加熱を停止した。その後約11時間後タンク側板がへこんだ。	通気管(40A)に硫黄の蒸気が凝縮付着し、閉塞した状態でタンク内の圧力が温度低下に伴い大気圧以下となったため変形したもの	タンク1基使用不能
S51.7.21	セントラル硝子(株)宇部ソーダ工場	合成工場野外タンク貯蔵所	船舶から発煙硫酸を屋外タンク貯蔵所(340 m ³ 、646 トン)に受入作業中、タンクの側板に水平に亀裂が生じ、発煙硫酸3.5 m ³ が漏出した。	側板亀裂箇所直上側の側板と天板との溶接部小孔があき、これから雨水が浸入し側板内部を伝い発煙硫酸界面で側板を侵食。この状態で受入れたため液圧で側板破損したもの。小孔発生原因は溶接不良と推定。	タンク側板破損
S51.11.30	宇部興産(株)セメント事業部宇部セメント工場	西工場仕上ミル工場	セメントクリーナーと石膏を混合粉砕するミルの軸受金属の温度が異常に上昇したことが制御室温度計で確認されたので係員が現場へ赴いたところ、同ミル用モーターの油入機器付近が燃えているのを発見、同モーター、配電盤ケーブルを燃損及び建屋窓ガラスを破損した。	油入機器の故障でその内部で異常な電流が長時間にわたり流れたため発熱し器中の絶縁油が加熱され、沸騰湧出した油が付近のビニール被覆を溶かしショートし油が着火	窓ガラス破損(20枚)機器燃損
S53.4.27	宇部化学工業(株)宇部工場	屋外タンク貯蔵所	屋外タンク貯蔵所(重油35KL)に元タンク(421KL)からポンプ玉送こり受入中、運転操作を誤り、タンク容量を超えて送油したため、通気管から漏洩し、更にタンク内が加圧されていたためタンク天板と側板溶接部が2m破損して重油約600L漏洩した。	誤操作	タンク天板破損、保溫材破損
S53.7.21	宇部興産(株)化学事業部宇部窒素工場	電気集塵装置	電気集塵装置(肥料乾燥炉から出る燃料排ガス中に含まれる肥料粉塵を集塵FRP製)から発火しているのを付近の作業員が発見、同装置1基を全焼した。	同装置内の絶縁が劣化し絶縁破壊がおこり同油が過熱され発火	電気集塵装置1基焼損

S54.7.23	宇部サイコン(株)	副原料屋内貯蔵所	屋内貯蔵所(第一類過酸化)物で鈍い爆発音がし、ストレート屋根破損、そこから黒煙と火炎が発生し、冷凍車、建家屋根スレート焼破損、過酸化(副原料)を焼損した。	屋内貯蔵所付属の冷凍設備の設置不良により冷凍車内の温度が上昇、そのため保冷中の過酸化物が分解発熱及びガス発生により爆発、発火したもの	屋根スレート・冷凍庫・貯蔵所内の過酸化(物)破損
S54.10.15	宇部興産(株)セメント事業部宇部セメント工場	石炭貯蔵車	建築工事中の石炭貯蔵車2階から煙が噴出した。建物(2階部分)、その内部に設置された石炭ホッパー内の内張り材(プラスチック)、及び関連するベルトコンベヤーを焼損した。	石炭ホッパー上方でガス切断作業をした際、溶接した火花がホッパー内に落下し内部の内張り材に着火したもの	建物199㎡ ベルトコンベヤー、ホッパー内張破損
S55.2.8	宇部興産(株)化学事業部宇部窒素工場	希硫酸屋外貯蔵タンク	70%希硫酸屋外貯蔵タンク(180㎡)が圧縮により側板及び底板が破損、貯蔵中に希硫酸4.4㎡(約7t)が流出した。工場内排水処理設備に導入し中和処理後工場内外へ放出した。	局部腐食による座屈	希硫酸4.4㎡流出
S55.2.23	日興石油(株)沖の山油槽所	岸壁	荷役作業中、船舶及び屋外タンク貯蔵所(重油525L入)間の連絡ミスにより、船槽ハッチから重油が溢出し、その一部が海上へ流出した。	荷役作業の合図不徹底	重油60L流出
S55.11.18	宇部興産(株)化学事業部宇部窒素工場	岸壁	接岸中の船舶から給油船から燃料油を送信中、タンク行シレブの締め切りが不完全なため、油が甲板及び海上へ流出した。	バルブ操作ミス	重油180L流出
S56.9.24 08時53分	宇部興産(株)化学事業部宇部窒素工場	No.6濃硝酸屋外タンク貯蔵所	濃硝酸ポンプでタンクから船舶へ送液を開始したところ約10分後同ポンプが破裂した。破片は最大26m飛散し、同ポンプ室の屋根スレート及び配管の一部を破損した。ポンプ周辺に漏洩した濃硝酸は水で希釈後、廃水処理施設で中和処理した。	インペラー止めナットの緩みによりポンプケーシングとインペラーが接触し、摩擦熱により内部が高温度となり濃硝酸がガス化し高圧となり破裂したもの	濃硝酸120kg流出 ポンプ破損
S57.4.7	セントラル硝子(株)宇部ソーダ工場	第4リン酸工場	リン酸石膏スラリー(70℃)を反応槽及び熟成槽に分注する分配器の内部がスケールで詰まったため、運転を止め、内部のスケールを除去中、配管等内部のスラリー残液約10㎡が分配器内へ漏出し、内部の作業員1名が死亡し、付近の作業員も軽傷を負った。	残留確認不十分	死者1名 負傷者1名
S59.5.2 13時40分	協和発酵工業(株)宇部工場	No.4炭酸ガスホルダー	ガス槽(2槽)及び水槽で構成された同じガスホルダーの水槽部側板の亀裂から水漏れが生じたため、溶接補修工事を始めたところ水漏れが増大し、突然亀裂が広がり側板上下方向全長にわたり破損し、内部の水2500㎡付近の現場事業所等一気に流入して従業員を押し流した。	ガス槽第2槽下部ローラーが摩耗して水槽部内面に接触する状態となったまま長時間使用したことにより、水槽側板に縦方向の溝状の傷が発生したこと、水漏れ部分の側板が減肉していたため、水圧に耐えられず破壊したものと推定	死傷者1名 負傷者9名 炭酸ガスホルダー全破壊 原副課工務室110㎡破損

S59. 7. 3 02時55分	宇部興産(株)化学 事業本部宇部ケミ カル工場 (東地区)	宇部興産岸壁	希硫酸を積み込むため、同岸壁 に停泊中の木造硫酸タンカー (80.41t)の甲板下船員室付近 から出火し、同船を全焼したほ か、付丘で接岸中の木造タンカ ー(87t)の一部を焼損した。 なお、出火タンカーは、とも綱 が焼切れ沖合60mの箇所で 燃焼した。	不明	木造硫酸タンカー全 焼、付丘で接岸中の木 造硫酸タンカー一部 焼損
S60. 9. 30 09時52分	セントラル硝子 (株)宇部ソーダ工 場	No. 5 リン酸タンク	No. 5リン酸タンク(容量250 m ³ 、内径6790mm、高さ7,620 mm)の天板改造のため、ガス切 断していたところ切断火花が 当該タンク側板マンホールの ライニングゴム上へ落下し、ゴ ムに着火・火災が発生した。な お、出火当時、タンクは空槽で あった。	アセチレンガス切断の火花 がタンク内部のライニング ゴムに着火したもの	ライニングゴム13m ² 及び木製足場材一式 焼損
S61. 3. 26 13時04分	宇部興産(株)化学 事業本部宇部ケミ カル工場	4期希硫酸工 場	4期希硫酸製造設備の運転中、 プロセスガス(NO _x 含有)吸 収塔入口配管の廃ガス処理装 置行き枝管の元弁が破損し、同 プロセスガスが約20m ³ 漏洩し た。	元弁グランドフランジの腐 食	
S61. 7. 23 18時45分	宇部サイコン(株) 宇部工場	106工場 No. 3中間サイ ロ	貯蔵能力50tのNo. 3中間サイ ロ(106工場で製造したAS 樹脂パウダーを空気輸送して貯 蔵するもの)に残っていたAS 樹脂(4.53t)を17時30分移 送を完了した。その後18時45 分頃、同No. 3中間サイロが突 然爆発、サイロ中央同本フラン ジ継手部分より上半分が飛び 上がり隣接するNo. 6サイロ 及びNo. 1中間サイロへ接触 し、同時に出火した。	構造不良、誤操作等の要因 が重なり静電気が蓄積され るとともに、爆発混合気が 生成され静電気スパークに より引火したものと推定	サイロ2基焼損 配管・計器等の付属設 備焼損 隣接建屋焼損
S62. 4. 2 14時15分	宇部興産(株)化学 事業本部宇部ケミ カル工場	硫酸工場	硫酸工場の再開準備中あたり、 前日、循環ガス配管の気密試験 で漏洩の認められたフランジ 部改修のため接合する配管を 取り出し中、予定どおり運転を 再開するため工程末部の廃熱 ボイラーのノックス反応器を 余熱する必要からCOを受け 入れたところ、COが逆流し、 改修部から漏洩した。	バルブの誤操作によりCO が逆流し漏洩したもの	CO中毒3名
H6. 2. 27 未明	宇部化学工業(株) 第1工場	焼成バーナー 燃料用サービ スタンク	パトロール中、タンク内スチ ームコイルドレン水に油膜を発 見したため、スチームを遮断し 漏洩を止めた後、工場内排水路 及び一部海上へ流出した油分 を処理した。	スチームコイルの腐食によ りピンホールが生じたため	C重油約100L流出 (内数Lが海上に流 出)

H6. 8. 25	(株) ジャパンエナジー 宇部油槽所	屋外タンク貯蔵所	パトロール中、No. 4タンク側板から1分間に1滴程度の微量の灯油が漏れているのを発見したため、翌26日消防機関へ通報し、タンク内の残油をタンカー船へ移送し処理した。	液面計ガイドパイプサポート取り付け部直下の側板こ外面腐食によりピンホールが生じたもの	灯油1L未満の漏洩
H7. 12. 7 11時00分	宇部興産(株) 宇部ケミカル工場	試験研究施設	実験室内において、実験担当者が500mL 試験瓶に残っていた物質不明の粉末薬品を廃棄処理しようとして、アセトン・アルコール等の水溶液5Lが入っている廃液ポリ容器にこの粉末薬品を100g入れたところ突然廃液が容器内で出火し、容器収納口から噴き出した火炎により実験担当者が負傷した。出火直後、粉末消火器で鎮火し、鎮火後消防機関へ通報した。	試験瓶に残っていた物質不明の粉末薬品(事故後の分析で危険物第3類金属の「水酸化ホウ素リチウム」と判明)の物性確認を十分に行わず、廃液ポリ容器に入れたため、水素化ホウ素リチウムが廃液ポリ容器内の水溶液と混触して激しく反応し発熱、廃液容器内の可燃性蒸気や反応で生じた水素ガスに着火したものの	負傷者1名
H9. 1. 7 08時30分	宇部興産(株) 宇部セメント工場	宇部セメント3号栈橋	係留中の船舶の潤滑油入れ換え作業中、潤滑油約10Lが、宇部港へ漏洩した。	接続ホース固定不十分のため	潤滑油約10L漏洩
H9. 5. 14 16時45分	宇部アンモニア工業(有) 宇部工場	酸性ガス除去設備	定期修理のため微量の硫化水素を含有したメタノールを脱液作業後、使用ホースを機器から取り外した際、ホース内の残留メタノール約2Lが床に漏洩するとともに、機器内の脱液状態を確認するため液を開放した際、メタノールの飛沫約0.5Lが床に飛散したため、風下側にいた作業員が硫化水素中毒を起こした。	残留確認不十分のため	負傷者1名 メタノール約2.5L漏洩
H10. 12. 11 10時00分	宇部興産(株) 宇部ケミカル工場	有機金属化合物充填設備	トリメチルインジウムが充填されている850cc容器から75cc小容器へ小分け準備中、850cc容器が突然破裂し、付近で作業していた従業員2名が負傷した。	不十分な弁開閉操作と逆止弁の機能不良により空気が850cc容器に逆流し異常燃焼した。	軽傷2名 工場建屋の充填設備の破損
H12. 7. 6 08時30分	宇部興産(株) 宇部セメント工場	セメント仕上げミル減速機	改造工事で休止中のミル減速機の機械保護のため潤滑油循環運転中、配管のフランジ部から、1,500L漏れ、一部(約40L)が側溝を経由して海上へ流出した。	補修のための配管フランジ部取外しについて保全部門からの連絡・申し送りがないうちに不用意に循環運転を開始したため、配管取り外し部から漏洩したものの	潤滑油約1,500L漏洩
H12. 7. 11 10時53分	日興石油(株) の山油槽所	接岸中の給油船	接岸中の給油船が積荷のA重油を貨物槽から自船の燃料タンクへ移し替え中、供給ラインから分岐した戻りライン経由で隣接貨物槽に入った油が甲板で約50Lオーバーフローし、そのうち約10Lが工業運河に流出した。	貨物槽間の油糧バランス用バルブの開け忘れにより、一方の貨物槽のみで過剰供給されたA重油がシッチ部からオーバーフローしたものの	A重油約50L漏洩

H14.3.27 10時00分	宇部興産(株)宇部 ケミカル工場	高純度硫酸製 造設備	医薬用の高純度硫酸製造施設 を運転中、発煙硫酸蒸気器と リボイバー(蒸気 150℃)との 接続部から発煙硫酸 20Lが漏 洩した。	蒸発器とリボイバーの接続 フランジ部のテフロン製パ ッキンが破損し、発煙硫酸 が漏洩したもの	発煙硫酸が20L漏洩
H14.7.21 09時15分	宇部興産(株)宇部 ケミカル工場	高純度硫酸製 造施設	高純度硫酸製造設備を運転中、 脱硝塔から No. 3製品タンク へ送液する作業を行った際、製 品タンクが満液こぼった。この ため、作業員が排出ラインへ切 り替えようとしたが、誤ったバ ルブ操作をしたため配管接合 部が外れ硫酸が約 10L漏洩し た。	排出ライン側のバルブを開 放する前に製品タンク側の バルブを閉じたため、送液 圧力が樹脂製の配管にかか り、圧力に耐え切れなくな った配管接合部が外れ硫酸 が漏洩したもの	負傷者1名 高純度硫酸が約 10L 漏洩
H15.1.15 8時20分	宇部興産(株)宇部 ケミカル工場	チラノ繊維製 造工場	チラノ繊維製造工場の重合槽 の自動サンプリング装置によ りサンプルを採集した後、当該 装置を洗浄作業中、重合槽の攪 拌機が停止したため、手で攪 拌機を起動したところサンプ ル装置のボックスから出火し た。	自動サンプル装置の上限位 置検知センサーが誤作動 し、重合槽とサンプル装置 の間の自動弁が開の状態 であったところに、攪拌機を 起動したため重合槽内部の 発火点以上になっていたガ スがサンプルボックス内に 達し外気と接触して発火し たもの	自動サンプリング装 置一部焼損
H15.5.7 10時35分	(株)イーユーピー 宇部事業所	廃プラスチック 成形処理設 備	廃プラスチックから水素を回 収する装置内の前処理設備(廃 プラスチックを溶かしてペレ ット状に成形)の上部蛇腹ダク トが燃えているのを発見した。 直ちに設備の運転を停止し、従 業員が消火器で約10分後に消 火した。	ペレット成型設備の成形ノ ズルの間に堆積した廃プラ スチックの塵芥が成形ノズ ルの熱で長時間加熱された ことにより自然発火し、蛇 腹ダクトに燃え広がったも の	蛇腹ダクトの一部焼 損
H15.5.17 18時15分頃	UMG・ABS(株) 宇部工場	CPS工場	休憩中の工場建家から黒煙が 上がっているのを守衛が発見 した。駆けつけた公設消防隊及 び自衛消防隊が約38分後に消 火した。	古いコンセントコードの劣 化及びコンセント内にAB S樹脂パウダーが堆積した ことより、ショートしてコ ードの樹脂皮膜が着火し、 付近のビニールカーテン及 び建家内のABS樹脂が延 焼したもの	工場の92㎡焼損
H15.6.17 12時49分	宇部アンモニア工 業(有)	アンモニア合 成設備	定期修理を終えて再起動中の アンモニア合成設備のサンプ リング配管から水素・窒素・ア ンモニアの混合ガスが漏洩し た。直ちに設備の運転を停止し て脱玉するとともに、消防署へ 通報して警戒活動を行い、16: 34 にサンプリング配管の元弁 を閉止して漏洩を止めた。	保温材で被覆されたサンプ リング配管(8A)が外部腐 食により減肉し、圧力 (12MPa)に耐えられずに閉 口(35mm×7mm)してガスが 漏洩したもの	混合ガス約 1,400 m ³ が漏洩 内アンモニア約28 m ³

H15. 7. 31 11時15分	宇部興産(株) 宇部 ケミカル工場	高純度安水製 造設備	高純度アンモニア水製造設備 において、作業中の作業員がつ まづいて転倒し、計測用テフロ ンチューブに体が滑り落ちてチュ ーブジョイント部が外れ、約2 Lのアンモニア水が漏れて飛 散し、当該者の顔面から臍部こ かけて負傷を負った。	テフロンチューブに対する 保護対策が不十分であった ため、作業員の転倒により、 接続部が外れてアンモニア 水が漏洩したもの	高純度安水(29.6%) 約2 L漏洩 中等傷1名(薬傷)
H15. 8. 12 4時23分	(株)イーユーピー 宇部事業所	廃プラスチック ガス化設備	廃プラスチックガス化設備の 高温ガス化炉(1400℃、0.9MPa) の上部から炉内の火炎が上が っているのを発見したため、直 ちに運転を停止した。炉内の火 炎は2～3分後に自然消失し、 炉内のガスバーンは同日の 11:20に完了した。	炉内の耐火材の施工不良と 耐火材の材質不良(高温ガ スとスラグにより溶損消 失)により、耐火材及び断 熱材が次落し、上部マンホ ール部の鋼材がむき出しこ なって高温ガスにより溶損 し、145mm×70mmの楕円形 の穴が開き、炉内の炎とガス が約400 m ³ 噴出したもの	混合ガスが約400 m ³ 漏洩
H16. 3. 13 18時30分	宇部興産(株) 宇部 セメント工場	スラジ処理場	自社で発生するマグネシウム 残渣及び他社から持ち込まれ たマグネシウム粉を鉄筋コン クリート製のプール内で水に 浸し水酸化マグネシウムにす るスラジ処理場において、 270kgのマグネシウム粉を堆 積していた部分から出火した。 覆土による消火活動を行い 20:05鎮火した。	堆積していたマグネシウム 粉が、内部に浸透してきた 水分と徐々に反応し、反応 熱が蓄積してマグネシウム の発火点(約500℃)以上こ なって自然発火したもの	被害なし
H16. 7. 30 18時15分	宇部興産(株) 宇部 ケミカル工場	第2ナイロン 6製造工場	第2ナイロン6製造工場の3 ～5階部分で自動火災警報設 備が鳴動したため、作業員が現 場確認に行こうとしたところ 突然ドーンという衝撃音がし て、工場建家から黒煙が上が った。自衛消防隊、共済消防組織、 公設消防の消火活動により 19:10鎮火した。	重合塔ジャケット部の熱媒 油が、液面計の指示値と異 なり実際におお減少していた ため、電気ヒーターが油面 から露出した。熱媒蒸気が 異常加熱(約1000℃)され 熱分解により内圧が上昇し ジャケットが破断、熱分解 で生じた水素・メタン等が 噴出し、電気設備等により 着火・破裂したもの	8CP設備の第1重 合塔設備、その附属設 備及び建屋4、5階部 分の一部を焼損
H16. 10. 14 16時20分	宇部興産(株) 宇部 ケミカル工場	宇部エムス (有)ラウロラ クタム製造工 場	合同事業所である宇部エムス (有)ラウロラクタム 工場の定期点検工事のため、作 業員が中4階末の鉄板をガス 溶断していたところ、中3階の 床面付近から炎が上がった。消 火器及び消火栓による消火活 動を行い16:35鎮火した。	機器内部洗浄で流れ出て中 3階末面に堆積していたス ケール(ラウロラクタムが 熱変形・重合した固形物) に、中4階から溶断物が落 下して着火したもの。	周辺機器が熱により 変色、ビニールシート を焼損

H17.6.23 8時50分	宇部興産(株)宇部ケミカル工場	ナイロン6 製造設備	ナイロン製造工程において酢酸(触媒)を1階のドラム缶から5階にある触媒計量槽へ送液するため、1階の配管バルブを開放したところ、ドラムポンプから当該バルブまで接続されていた塩化ビニル製ホースが突然外れ、酢酸約10Lが飛散し、送液作業をしていた作業員1名が、その酢酸を浴びて薬傷を負ったもの。バルブは被災した作業員が直ちに閉止し、漏えいおさまった。その後、計器室操作員を通じて連絡を受けた事務現場責任者(係長)から消防に救急要請されたもの。	破損した金属フレキの代替として、塩化ビニル製ホース及び金属生バンドを使用し、送液配管に固定していた。これまでの使用により金属生バンドが緩んでいたと思われ、1階のバルブを開けた際、配管に作用していた残液酢酸の背圧により、ホースが外れたもの	負傷者 1名 施設内床上に酢酸約10L飛散
H17.10.20 16時20分	セントラル硝子(株)宇部工場	A-3プラント	有機フッ素化合物製造設備の工程途中にあるHF放散器のベントチューブに漏れた形跡があり、改修のため、HF放散器の配管接続部分を離脱した際、HF放散器内に滞留していた弗硫酸が漏れ、作業員1人が被液したもの。なお、被液作業員は防護服を着用していたが、下げた両腕を伝って弗硫酸が防護手袋内に浸入し両手首を負傷した。消防に救急要請するとともに、施設の運転停止及びHF放散器内の弗硫酸の全量移液を行った。	毒劇物が流れる配管の改修工事にも関わらず、運転停止又は内容物を除去せず工事を実施、配管内の在液状態及び詰まり状況の確認不十分、HF放散器内部のライニングの破損・劣化により多量の弗硫酸がライニングを通過してHF放散器本体に滞留していたこと等複数の要因による。	負傷者 1名 施設内の機器・床上に微量の弗硫酸が漏れ
H18.9.1 8時30分	UMG・ABS(株)宇部工場	ブタジエンタンク	ブタジエンタンクのドレン抜きのため、底部のドレンバルブにペール缶を掛けて作業していたが3回目のバルブ開閉時に発火し、2名が火傷した。従業員が消火栓から放水したが消火できず、バルブを閉止して火おさまった。	ペール缶にドレンを受入れた際の静電気による放電火花により着火したもの	人的被害 中等傷1名 軽傷1名
H18.9.2 17時35分	宇部アンモニア工業(株)	アンモニア合成工場	定常運転中、合成ガス圧縮機吐出配管から何らかの理由により漏れ出したガス(水素・窒素)に引火して火災が発生した。直ちに装置の運転を停止して脱圧と窒素パージにより18時47分に鎮火した。	圧縮機2段吐出配管のエンドフランジ部の片締めによりガスが漏れ、静電気又は鉄さび等の摩擦により着火したもの	外壁等の一部焼損

H18. 11. 10 10時50分	(株)EUP 宇部事業所	廃棄物処理二段ガス化設備	前日の21:30頃、低温ガス化炉の上部階でシレブ作動油ホースの破損により約100Lが漏えいしたため、吸着マットで回収しホースを交換した。 翌10日の10:50頃、低温ガス化炉保温材付近で白煙が発生し火災となった。直ちに装置を停止し散水設備を起動して消火活動を行い、11時頃鎮火した。	前日に漏えいした作動油の一部が床の隙間から下部階の低温ガス化炉に滴下し、保温材に浸入して発火点以上になり発火したもの	保温材の一部焼損
H18. 11. 13 16時20分	セントラル硝子(株) 宇部工場	希釈フッ素充填設備	フッ素ガスを容器に充てん中に配管に組み込まれたフィルターから出火しているのを発見したため、直ちにフッ素ガス供給シレブを閉止したところ16:27に鎮火した。 この火災により SUS 製のフィルター及び配管の一部を焼損した。	希釈用窒素ガス又は置換用ヘリウムガスの配管内に異物が混入したため、フィルター部でフッ素ガスと反応して温度が上昇し、更に配管と反応して焼損したものの	SUS 製のフィルター及び配管の一部焼損
H18. 12. 25 13時10分	協和酒造工業(株)宇部工場内 (株)協和ロイーズ	スチールウールたわし製造工場	スチールワイヤーを切削してスチールウールを製造するNo.2切削機付近で火災が発生したため、従業員が消火器6本を使用して13:14に消火した。 この火災により集塵用排気ダクトの一部を焼損した。	切削機の冷却スプレーノズルが詰まってスチールウールが加熱・発火し、ダクト内の塵埃で延焼したもの	スチールウール切削機及び集塵機ダクトの一部焼損
H19. 1. 11 13時45分	セントラル硝子(株) 宇部工場	弗酸工場電気室	弗酸工場の運転員が操作室内で異臭を感じ、点検したところ、電気室のUPS(無停電電源装置)からの出火を見つけた。従業員が消火器で消火するも発煙が続くので、電源を遮断し沈火させた。	UPS内のコンデンサー製作過程における傷又は異物混入による耐電圧不良のため発火したもの	UPSの焼損
H19. 4. 2 10時15分	セントラル硝子(株) 宇部工場	フッ化物ガス製造施設	安全弁2次側パイプ用窒素配管の流量計交換作業時に配管内部に溜まっていた弗酸により運転員が被ばくし負傷した。	配管内の窒素流量が低下したため、共通配管を通じて他工程の排ガス(弗酸ミスト)が逆流し、配管内に弗酸が滞留して漏えいしたもの	人的被害 軽傷1名
H19. 4. 8 11時30分	UMG・ABS(株)宇部工場	合成樹脂乾燥設備	通常運転中樹脂乾燥ドラライヤー内で発生するミストを回収するためのサイクロン最上部から出火した。消火・冷却により12時53分鎮火させた。	以前にサイクロンに摩擦による穴あきが発生し補修したが、樹脂が外壁と保温材の間に堆積し、残存していた。その樹脂が熱源で酸化・自然発火したもの	サイクロンの焼損
H19. 4. 10 3時09分	セントラル硝子(株) 宇部工場	充填用クリーンルーム	三フッ化塩素充填中、充填用フレキシブルホースに亀裂が発生し、三フッ化塩素が漏えいした。クリーンルーム内のガス検知器が反応し、緊急停止し、漏えいは停止した。	フレキシブルホースの劣化により亀裂が発生し漏えいしたもの	フレキシブルホース破損

H19. 5. 2 9時40分	セントラル硝子株 宇部工場	フッ化物製造 施設	フッ素樹脂の調合設備で使用 している低圧空気圧縮機を起 動後、しばらくして出火した。 消火器で消火するとともに、公 設消防隊が放水して10時20 分鎮火させた。	圧縮機の冷却水を送水して いなかったため、発熱こよ り内部のホースが溶断、潤 滑油が漏えいし発火したも の	圧縮機の焼損
H19. 9. 13 21時00分	セントラル硝子株 宇部工場	第4リン酸工 場スイッチ室	地絡警報が発報後、機器類が停 止してしまっていたため、スイッ チ室を点検したところ、ボンと いう音と共に火炎が発生し、直 ちに消火器で消火した。	電動機の過負荷状態での運 転により、電動機内の絶縁 が劣化し短絡。電源盤内の サーマルリレーが作動する 前、内部のヒーターが異常 発熱し、出火したものの	電源盤の焼損
H19. 12. 4 9時40分	セントラル硝子株 宇部工場	ベルトコンベ ア操作室	原塩受入のベルトコンベア操 作室周囲で歩廊更新のための 溶接作業終了後、操作室内か ら出火した。溶接作業員が消火 器等により15分後に消火し た。	操作室外壁下部の破損部隙 間から溶接火花が操作室内 に入り込み、可燃物で着火 したものの	操作室一部焼損
H20. 12. 2 16時40分頃	宇部アンモニア工 業有)	石炭ボイラー 設備	石炭ボイラー設備内のA重油 供給配管に設けられた、流量計 フランジ部のパッキングが破損 し、A重油が漏えいした。運転 作業員が漏えいにご注意、供給 ポンプの停止及び流量計前後 弁の閉止を行い、漏えいは停止 した。	ボイラーの停止操作に伴 い、配管内でA重油の液封 状態が発生、スチームトレ ースにより加熱され、配管 内の圧力が上昇して流量計 のパッキングが破損したもの	流量計パッキング破損 A重油約470L漏え い
H21. 1. 20 10時02分	宇部マテリアルズ 株第一工場	9号ロータリ ーキルン	ロータリーキルン定期整備後 の本バーナーへの点火、キルン 内昇温中にガスギア内部か ら出火した。	キルン内の耐火煉瓦の脱落 による局所的な発熱こよ りガスギア内の潤滑油に着 火したものの	被害なし
H21. 9. 16 10時25分	宇部興産株宇部ケ ミカル工場	発煙硫酸配管	配管補修工事の準備として、配 管中の発煙硫酸をエアページ により送液していたところ、配 管フランジ部から発煙硫酸が 漏洩した。直ちにラインの元弁 を閉止するなど処置を行い、漏 洩を停止させた。発煙こよる有 害ガスは水噴霧こより、拡散を 防止した。	長期使用に伴う経年劣化こ よりパッキングの外皮亀裂、 強度低下が発生し漏洩に至 ったもの	発煙硫酸88L漏洩
H22. 6. 5 16時20分	宇部アンモニア工 業有)	電気室	配電盤の不具合ユニッ ト交換作業中に火災が 発生。 火災は、駆けつけた担当 者が粉末消火器で消火。	作業員がテスター操 作を誤り電気短絡が 発生し、経年劣化によ る影響もあり火災が 発生した	ユニット一部焼損 人的被害軽症1名
H23. 1. 14 15時30分	宇部興産株宇部セ メント工場	パーライト製 造設備	3階の作業足場で1人 で電気溶接作業を行っ ていたところ、作業員の 着衣に着火した。1階ま で自力で降りてきて他 の作業員によって消火 された。救急病院に搬送 されたが翌日死亡。	溶接の火の粉が被災 者の所持していたラ イターから漏れたガ スに着火し、着衣全体 に延焼したと推定。	人的被害1名死亡

H23. 4. 26 20時15分頃 発見	宇部興産(株)宇部ケミカル工場	チラノ繊維製造設備	スタートアップ中に加温・加圧した分解ガス（ジメチルシラン）が、反応槽フランジ部から漏洩し、自然発火した。従業員が直ちに消火器で消火後、反応器に窒素を封入し、冷却を実施した。	フランジ固定ボルトの締付不足状況下で別機器行きの配管の伸びによる外力によってガスケット締付面圧が低下したものの。	
H23. 7. 28 13時40分	セントラル硝子(株)宇部工場	排ガス集塵機	集塵機の補修作業に伴う溶断作業中、溶断の火花により、溶接する工作物の樹脂製波板が出火したものの。	当初、当て板工事であったものを、作業者の判断でガス溶断を用いる部分取替に変更した。溶断火花が外部に飛び散り、養生していなかった波板に引火したものの。	樹脂製波板の引損
H23. 9. 30 11時38分	宇部アンモニア工業(有)	アンモニア製造施設	空気分離装置停止操作中に合成圧縮機室付近の圧縮機軸受シールオイル加圧用配管（15A）が開孔し、合成ガスが漏えい、出火した。合成系統内への水素ガスの供給を停止し、窒素パージを行い鎮火させた。	保温材の劣化により雨水が進入し、外面腐食により配管が開孔した。噴出した合成ガスと配管との撃摩擦により火災に至ったと推定。	保温材等焼損
H25. 9. 8 23時55分頃	UMG・ABS(株)宇部工場	中間製品タンク	ABS樹脂の中間品（ブタジエンの重合体）を貯蔵するコンクリートタンク又はその周辺で、火災及び爆発が発生し、周辺設備が損傷した。	火災は、タンク壁面に付着した残渣物の自己発熱発火のため。隣接タンクの爆発は、気相部に存在した高濃度のガスにタンク上部のベントから着火したためと推定。	プラントの損壊及び焼損 人的被害 軽症2名
H25. 10. 15 4時55分頃	セントラル硝子(株)宇部工場	排水処理設備	活性炭を再生する工程の高温活性炭の冷却槽で、何らかの原因で水の供給が止まり冷却が行われなかったため、高温となり点検口隙間及び煙突から炎が出たもの。	内部確認のため再生炉排出弁のスナップスイッチを操作した際、近接している冷却槽シャワーに誤って触れたため（推定）。	処理設備焼損
H26. 10. 15 4時55分頃	セントラル硝子(株)宇部工場	排水処理施設	活性炭を再生する工程の高温活性炭の冷却槽で、何らかの原因で水の供給が止まり冷却が行われなかったため、高温となり点検口隙間及び煙突から炎が出たもの	内部確認のため再生炉排出弁のスナップスイッチを操作した際、近接している冷却槽シャワー弁のスイッチに誤って触れたため（推定）	処理設備焼損

H26. 2. 4 9時10分頃	宇部興産(株)宇部ケミカル工場	硝酸ナトリウム製造工場	鉄骨ストレート造りで野地板が木材の古い建物の工場屋根部分の改修工事中、ケレン作業でグラインダーを使用していたところ、屋根のガラリ(木製)部分に火花が飛び、延焼したもの。	火気養生と危険源(可燃性)の排除が不十分であったもの。また、木材の劣化や硝酸ナトリウムの付着により、ガラリが着火しやすい状況であった。	木製ガラリ及び屋根下の野地板が焼損
H26. 17. 28 17時28分頃	宇部興産(株)宇部ケミカル工場	ナイロン12工場	ナイロン12樹脂とその共重合品を製造する工場配管から漏洩し、保温材に浸漬した原料のラウロラクタムが酸化分解反応を起こし、蓄熱、発火した。	規格より小さいガasketを使用したため、ガasket外周部の破損を生じ、配管から漏洩したもの。	ラウロラクタム186L漏洩
H26. 5. 25	協和発酵キリン(株)宇部工場	製糖工場	停電作業に伴い、除湿器の電源を切断する際、電気ヒーターの電源を誤出し忘れ、除湿器が過熱状態となり出火した。	ヒーターが除湿器のオプション設置であったため、電源系統が独立し、インターロックが組み込まれておらず、また、作業手順にも手順が記載されていないもの。	機械室内焼損
H26. 6. 17 23時30分	宇部興産(株)宇部ケミカル工場	濃硝酸製造工場	希硫酸(70%)タンクが開口し、希硫酸が漏洩した。漏洩した希硫酸は側溝から排水処理施設に流れたが、一部中和処理が間に合わず、海上へ流出した。	タンクの経年劣化、誤操作による内液の増加、温度上昇等が複合的に作用して破損に至ったものと推定。	FRP製6 m ² タンク破損希硫酸3 m ³ 漏洩
H26. 8. 12 6時05分頃	宇部興産(株)宇部セメント工場	水砕スラグ運搬船	運搬船内のメインサービスタンクへの送油の際、誤ってサブサービスタンクにも送油し、通気管から甲板上に漏洩し、一部が排出口を通じて海上にも流出した。	サブサービスタンクへの重油配管バルブを閉め忘れたもの。	重油約20L漏洩
H27. 1. 9 9時35分	宇部マテリアルズ(株)宇部第一工場	排ガス処理装置	排ガス処理装置後段のミスト除去を行うエリミネータの穴を補修するため、グラインダーで外側から下地処理を行っていたところ、エリミネータ内部から火災が発生した。	外面腐食により肉厚が薄くなっていたことにより、摩擦熱がエリミネータ内側のライニング(ビニルエステル樹脂)に伝わり、ライニングに着火したもの。	エリミネータ内部エレメント及びライニング全焼損等

H27.6.12 3時02分頃	宇部興産(株)宇部セメント工場	クリンカ運搬ベルトコンベア	セメント原料のクリンカをキルンからクリンカサイロへ運ぶベルトコンベアで火災。	重油への切り替え及び原料送込量の下げ操作が遅れたため、クリンカの造粒が不十分なままクーラーに押し込まれ、十分に冷却されずにベルトコンベアに流れ出した。サイロ上部のベルトコンベアが熱によりベルトが伸びて駆動力が落ちて止まり、熱が籠って出火した。	ベルト、付帯電気ケーブル等焼損
H27.9.3 18時20分頃 発見	宇部興産(株)宇部ケミカル工場	ジオール工場	ジオール工場の水添プレヒーターラインの圧力計接続部から水素が漏洩し、静電気着火による出火。	圧力計受け座に打痕傷があり、また、アルミ製と銅製のガスケットが2枚取り付けられていたことによる面圧低下により漏洩し、静電気により着火したと推定。	重油約23L漏洩
H28.1.29 6時35分頃 発見	宇部興産(株)宇部ケミカル工場	廃棄物置き場 (ラウロクタム工場)	寒波の影響で、製造工程を停止しし、固着防止のために蒸留工程の循環運転をしていたところ、不調により還流ドラム抽出ポンプが停止、再起動をしたが起動できなかったため、還流ドラムの液面計の誤指示を疑い、指示の確認のためドラムに液をながしたところ、ドラム上部のブリーザー弁からラウロクタムが漏れ出す。その後、保温材が自然発火するおそれがあるため、水をかけ廃棄物置き場に置いていたところ、発火。	溢れる可能性を予期していたが、液面指示の確認のため、流出防止措置を取らず、液を流したため。 また、発火防止のため水をかけたが、保温材内部に含浸したラウロクタムの参加反応の停止には不十分であったため、保管中に、局部的に発火温度を越え、火災に至ったと推定。	廃棄物置き場の一部 焼損
H28.2.6 10時33分頃 発見	宇部興産(株)宇部ケミカル工場	硫酸工場	廃熱ボイラー立上げ操作中に、排ガス(一酸化炭素と水素)を供給したところ、ラインと外気温の寒暖差により大気オープンラインから空気が流入し、旧逆火防止器(水封式逆火防止器を使用変更し、水を溜めず配管として使用)が爆発	水封式逆火防止器の使用方法を変更した際に、空気の逆流の検討が抜けており、寒暖差により空気が流入していた。 空気の流入により酸素濃度が上昇した中、廃ガス供給時に旧逆火防止器内の滞留していたガスが急に流れ始めたため、錆又はガス流速を起因とした静電気が発生し着火、爆発したと推定。	ボイラー建屋のストレート屋根約50㎡が 破損落下 窓ガラス22枚破損

H28. 3. 5 15時55分頃 発見	チタン工業株宇部 工場	屋外重油タンク のNo1 ポンプ	停止中の送油ポンプの パッキングが劣化し、配 管内圧により重油が漏 洩。その後、油回収処理 が不十分であり、翌日の 降雨により、海上に流 出。	送付ポンプのフラン ジ部パッキンの劣化 管理不足及び油回収 処理の不備。	重油 約63.5L漏えい
H28. 4. 6 8時30分頃 発見	UMG・ABS(株) 宇部工場	ABS樹脂破 砕機	工場内の破砕機を稼働する 際、破砕機制御盤内の始動用電 磁接触器が劣化により溶着し、 アーク放電により、火災が発 生。	始動用電磁接触器の1 つ接点の表面が消耗 し、台金が露出・溶着 し、始動用から運転用 の電磁接触器に切り 替わらず、他の接点で アーク放電を起こし、 加熱され、火災に至っ たと推定。	始動用電磁接触器の 焼損
H28. 5. 2 15時00分頃 発見	チタン工業株宇部 工場	濃硫酸タンク に接する配管	保温材を巻いた濃硫酸 タンクの接続配管から、 濃硫酸が漏えい。	配管の保温材の隙間 から雨水が侵入し、サ ポート接触部分に雨 水が溜まり、腐食が進 行し、ピンホールが生 じたと推定。	98%濃硫酸 200L漏 えい
H28. 6. 1 3時00分頃 発見	宇部興産(株)宇部 ケミカル工場	第3ナイロン 6工場	プラント設備の稼働準 備中、重合塔ジャケット 内部の窒素ガスを抜く ため、脱気用真空ポンプ を起動させたところ、熱 媒タンクから熱媒を吸 い上げ、真空ポンプの吐 出部から漏洩。	熱媒タンクからの熱 媒吸い上げを防止す るため、手順書に規定 されたバルブ閉止を 行わなかったため。	熱媒(主成分:メチル ナフタレン)約200L 漏えい
H28. 6. 4 1時39分頃 発見	宇部興産(株)宇部 ケミカル工場	ユーピレック ス第1工場電 気室	加熱炉のヒーター制御 盤内部の電磁接触器が 発火し、火災が発生。	電磁接触器の取り換 え工事でボルトの接 触不良を起こし、ねじ 山が欠け、端子と導体 に隙間が生じ、接続部 が発熱・発火したと推 定。	制御盤の焼損
H29. 2. 13 11時10分頃	セントラル硝子(株) 宇部工場	ボイラー用湿 式電気集塵機 設備	廃止したボイラー用湿 式電気集塵機設備の上 部の鉄製外板を解体中、 アセチレン溶断機の火 花が集塵機内部の樹脂 (ポリプロピレン)製充 填剤に着火延焼し、火災 が発生。	設備の解体作業にお いてアセチレン溶断 機の火花が集塵機内 部の樹脂製充填剤に 着火延焼したもの。	ボイラー用湿式電気 集塵機設備の焼損
H29. 3. 5 15時30分頃	セントラル硝子(株) 宇部工場	有機フッ素化 合物製造工場	キシレン塩素化工程の 塩素化反応器から白煙 が発生したため、工程を 止め内容液を抽出しな がら反応器の保温材(ロ ックウール)を取り外し ていたところ、ジャケッ ト部と保温材の隙間が 赤熱し、火災が発生。窒 素ガス吹付により消火。	キシレン塩素化工程 の反応器ジャケット 部において、保温材が 何らかの原因により 燃焼したもの。	塩素化反応器の焼損

H29. 4. 21 20時55分頃	宇部興産株 宇部藤曲工場	プラントヤードのボイラー室	硫黄回収設備のクラス反応器(硫化水素から硫黄を分離する機器)下部の配管から硫黄が漏洩し、火災が発生。窒素ガス吹付により消火。	設備停止前の「クーリングダウン」運転中に、配管内に堆積した硫黄が発火してその燃焼熱により配管が開口し、外気に触れた内部の可燃性ガス(硫黄蒸気等)が更に燃焼し炎が外部に出たもの。	硫黄回収設備の配管の焼損
H29. 8. 10 8時50分頃	セントラル硝子株 宇部工場	硫酸を船舶から工場内の施設に送液する施設	配管の腐食により濃硫酸10Lが漏洩。タンク元バルブを閉鎖し対応したが、配管内残液の漏洩により、さらに濃硫酸15Lの漏洩があったためドラム缶にて受けた。濃硫酸の敷地外、海上等への流出はなし。	硫酸タンクから硫酸ポンプへの送液配管の腐食によるもの。	濃硫酸25L漏洩
H29. 8. 23 19時00分頃	セントラル硝子株 宇部工場	フッ素希釈ガスを製造し、ボンベ充てん等を行う工場	残ガスが残ったフッ素希釈ガスの回収ボンベ(47L)に配管を接続し、回収設備に残ガスを回収するためボンベのバルブを開いたところ、ボンベと配管の接続口から炎が噴き出したもの。作業員が直ちにバルブを閉止して炎は収まったが、バルブを閉止する際に右手にⅡ度の熱傷を負ったもの。	フッ素希釈ガスの回収ボンベに回収設備の残ガスを回収する際にボンベのバルブを開いたところ、ボンベと配管の接続口から炎が噴き出したもの。	軽傷1名
H29. 10. 20 8時5分頃	宇部興産株 宇部ケミカル工場	有機化合物(MO:第3類)を製造する施設	グローブボックス内でトリメチルインジウムの回収作業を実施中に爆発し火災となり、グローブボックスが破損。火災は従業員が消火器で消火。爆発の際に従業員が吹き飛ばされ腰部を打撲し、顔に切創を負ったもの。	トリメチルインジウムを昇華したガスが何らかの理由で発火・破裂したもの。	軽傷1名

参考資料「山口県石油コンビナート等防災計画」